

はじめに

日頃より、甲府市社会福祉協議会の事業ならびに活動に対し、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

3年以上続いた新型コロナウイルス感染症への危機対応も令和5年に入り転換期を迎え、アフターコロナに向け、平時の日常生活や経済活動を取り戻しつつありますことは、今後の地域福祉の推進におきましても大変喜ばしい限りです。

これまで、コロナ禍での活動制限等が長引く中、地域コミュニティの希薄化などの環境の変化により、生きづらさや暮らしづらさを抱える人々が増加し、地域住民が抱える生活課題や福祉課題は、既存の社会福祉制度だけでは解決できない状況となっております。

この課題の克服に向けては、包括的な支援体制の整備をはじめ、地域住民や地区社会福祉協議会等の各種団体、行政、学校等が連携・協働し、地域福祉を推進する取組がこれまで以上に求められております。

このような状況の中、学校においては、コロナ禍においても感染症対策に様々な工夫を凝らしながら「福祉ボランティア活動実践校事業」の実施に取り組んでいただき、これまでと同様の成果を挙げていただきましたことに、心より感謝と敬意を表します。

この事業により、児童・生徒たちが社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うことで、豊かな人間性や社会性を育み、社会的自立と自己実現を図り、次世代の担い手となってくれるものと確信しております。

当協議会では、今後も地域の様々な主体と連携し、「福祉ボランティア活動実践校事業」の推進に積極的に取り組んでまいります。

この度、令和4年度の事業の取組を活動集として作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

結びに、この事業推進のためにご尽力をいただきました関係各位に心からお礼いたしますとともに、当協議会が実施する各種事業への更なるご支援をお願い申し上げます。

令和5年6月



社会福祉法人甲府市社会福祉協議会 会長 山田文夫

目次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領	1
福祉ボランティア活動実践校事業指定校一覧	3

【令和4年度福祉ボランティア活動実践校の取り組み】

①甲府市立池田小学校	4
②甲府市立石田小学校	5
③甲府市立新紺屋小学校	6
④甲府市立伊勢小学校	7
⑤甲府市立国母小学校	8
⑥甲府市立東小学校	9
⑦甲府市立相川小学校	10
⑧甲府市立千塚小学校	11
⑨甲府市立東中学校	12
⑩甲府市立南中学校	13
⑪甲府市立里垣小学校	14
⑫甲府市立玉諸小学校	15
甲府市ボランティアセンターの紹介	16
甲府市ボランティアセンター実施事業の紹介	18
ご活用ください！	21
高齢者の体と心を体験してみよう！！	22

甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実施要領

第1条 目的

この要領は、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うとともに、家庭や地域における福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を図る福祉ボランティア活動実践校（以下「実践校」という。）事業の実施について、必要な事項を定める。

第2条 実施主体

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「協議会」という。）とする。

第3条 実施の期間

実施期間は、令和3年度から令和5年度までの3年とし、事業の見直し等がない限り、3年毎に更新するものとする。

第4条 実践校の指定

実践校は、協議会が甲府市立の小・中学校及び高等学校の中から、3年の事業期間中、一年度に限り指定するものとする。

第5条 協議会の役割

次の各号を行うものとする。

- (1) 実践校の指定
- (2) 事業の説明、実践校相互の情報交換等を図るための連絡会議の開催
- (3) 助成金の交付事務
- (4) 福祉教育に関する相談
- (5) 福祉講話講師（車いすの使用者、盲導犬の同伴者等）の紹介
- (6) 職員及びボランティア等の派遣
- (7) 福祉体験器材の貸出
- (8) 事業推進に必要な情報の提供

第6条 実践校の活動

実践校は、それぞれの学校と地域の実情に合わせて、次の各号の例示を参考にした活動を行うものとする。

- (1) 学習活動
 - ・車いすの使用及び高齢者の疑似体験
 - ・手話、点訳、音声訳及び要約筆記等の学習
 - ・福祉講話の開催
 - ・福祉・ボランティア関係の資料等の整備

- (2) 体験学習を目的とした実践活動
 - ・ 社会福祉施設等への訪問による入所者との交流や介護等の体験活動
 - ・ 体育祭、文化祭等の学校行事への高齢者、障がい児（者）等の招待
- (3) 啓発活動
 - ・ 福祉・ボランティア活動の地域への紹介
 - ・ 校内での意識の醸成、取り組みの継承
- (4) 社会福祉事業への参加・協力
 - ・ 地域におけるボランティア活動への参加
 - ・ 共同募金への協力
 - ・ 古切手、牛乳パック等の収集
 - ・ 協議会の実施する事業への参加
- (5) その他社会福祉に関する活動

第7条 助成金

実践校への助成金は、第6条に定める活動に必要な諸謝金、旅費交通費（講師の移動に係る経費）、消耗品費、印刷製本費及び協議会が必要と認めた経費とする。

2 助成金は、協議会の予算の範囲内で、1校につき4万円を上限に必要な経費を助成する。

第8条 助成金の申請

助成を受ける実践校は、次の書類を協議会会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第1号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業 事業計画・予算書（第2号様式）

第9条 実績の報告

実践校は、事業完了後又は当該年度終了後すみやかに、次の書類を協議会会長に提出しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第3号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第4号様式）
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第5号様式）
- (4) 事業に関わる領収書（写し可）

第10条 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項についてはその都度協議して定めるものとする。

附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

福祉ボランティア活動実践校事業 指定校

【令和3年度～令和5年度実施】

No.	学校名	指定年度		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	善誘館小学校	○		
2	山城小学校	○		
3	大國小学校	○		
4	千代田小学校	○		
5	湯田小学校	○		
6	北東中学校	○		
7	北西中学校	○		
8	城南中学校	○		
9	甲府商業高等学校	○		
10	大里小学校	○		
11	甲運小学校	○		
12	新田小学校	○		
1	池田小学校		○	
2	石田小学校		○	
3	新紺屋小学校		○	
4	伊勢小学校		○	
5	国母小学校		○	
6	東小学校		○	
7	相川小学校		○	
8	千塚小学校		○	
9	東中学校		○	
10	南中学校		○	
11	里垣小学校		○	
12	玉諸小学校		○	
1	貢川小学校			○
2	中道南小学校			○
3	中道北小学校			○
4	北新小学校			○
5	羽黒小学校			○
6	舞鶴小学校			○
7	朝日小学校			○
8	西中学校			○
9	富竹中学校			○
10	南西中学校			○
11	笛南中学校			○
12	上条中学校			○
13	北中学校			○
合計		12	12	13

1

甲府市立池田小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	甲府支援学校との同学年交流 生き物委員会と地域の方による花いっぱい運動 あいさつ運動 ボランティアの方による朝の読み聞かせ ペットボトルキャップ収集 募金・書き損じ葉書など収集	5～6月	点字・共用品の学習及び白杖体験(4年生)
		6.10	福祉講話(4年生)
		9.23	盲学校児童、本校秋季大運動会参加

2 取り組み事例

(1) 福祉講話

4年生の総合学習で、さまざまな不自由さをもつ人や福祉について学習しました。地域在住の肢体不自由の方より、これまでの人生のこと、不自由さをもつ人と家族の思い、障がい者に優しく勇気を与える人になってほしいという子ども達への願いについても講話していただきました。



(2) 生き物委員会

地域の社会福祉協議会の方に教えて頂きながら生き物委員会児童が中心となり、プランターにビオラなどを植え校内に花いっぱい運動の推進をしたので、全校で花を見て楽しめました。また、生き物委員会児童は花がきれいに咲くように、世話をしてくれました。

3 一年間の評価と課題

池田小では福祉教育で「交流及び共同学習やボランティア活動を通して、心身に障がいを持った人や高齢者などに対して思いやりのある子どもを育てる」ことを目標としていろいろな活動を計画し取り組んできました。特に20年以上続いている甲府支援学校や盲学校との交流においては、コロナ禍であるため様々な制限はありましたが、ふれあうことができました。今後も計画的に教育課程に入れながら福祉教育の積み重ねをしていきたいと思えます。

2

甲府市立石田小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動	10.24	4年福祉講話
	ペットボトルキャップ収集	11.4	ききみみずきん読み聞かせ
	古切手・書き損じ葉書収集	11.10	3年福祉講話
	花壇の花植え替え	3.16	6年愛校奉仕作業

2 取り組み事例

(1) 福祉講話3年

3年生は、総合「耳の不自由な人と交流しよう」の学習で、講師をお招きし、福祉講話を開きました。手話通訳の方と一緒に来校していただき話を聴くことで、生活の大変さや耳からの情報の大切さを知ることができました。



(2) 福祉講話4年

4年生は、総合「目の不自由な人の生活を知ろう」の学習で、講師をお招きし、福祉講話を開きました。話の中で、「一番うれしいのは、『大丈夫ですか』と声をかけていただくことです」ということを聞き、子どもたちは、「いろいろな人と助け合っていきたい」という気持ちをもつことができました。



3 一年間の評価と課題

年間を通して児童会活動を行い、お互いの価値を認め合う活動ができました。また、福祉講話や器具を使った体験を通して、障がいをもつ方への思いやりの心をもつことができました。教科・総合的な学習の時間及び道徳とも関連させながら、これからも継続して取り組み、豊かな心を育てていきたいと思えます。

3 新紺屋小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動	10月	図書室「福祉ボランティアコーナー」の設置
1学期	ウクライナ募金	10.18	福祉講話
2学期	愛の絵はがき・ファイル購入への協力 赤い羽根募金 アフリカ救援米		

2 取り組み事例

(1) 福祉講話

10月18日に福祉講話を行い、視覚障がいをおもちの方が盲導犬を連れてお越しくださった。サングラスがスマホと連動してリアルタイムで様々な情報を知ることができるということや盲導犬との交信方法などについてお話しくださった。

「点字ブロックの上に物を置かないでほしい。」ということや「障がいをもった人を見かけたときには声をかけてほしい。」というお願いを子供たちは真剣な表情で受け止めていた。



(2) 図書室に「ボランティアコーナー」を設置

図書室の既存の福祉関係書籍をさらに充実させるため、新たに書籍を8冊購入した。児童が手に取りやすいように表紙が見えるようにたてかけたコーナーを設けた。福祉講話会の後は、特に点字に関心をもった児童が増え、貸し出しの冊数が増えている。

3 一年間の評価と課題

募金活動に対しては保護者の意識も高く、多額の支援が集まった。福祉講話を通して、視覚障がいをもつ方への理解を深めることができ、図書室では、関心をもったテーマに対する書籍を手にする児童が増えた。今後も助け合いの心をもった児童の育成に取り組んでいきたい。

4 甲府市立伊勢小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	花いっぱい活動	11月中旬	愛校作業（全学年）
	使用済みはがき・古切手・タオル等集め、	12.7	福祉講話（聴覚）3年
	ペットボトルキャップ集め等、赤い羽根	12.8	福祉講話（視覚）4年
	共同募金等	12月上旬	点字体験 4年

2 取り組み事例

(1) 愛校作業

きれいな学校にするために、愛校作業に取り組みました。本校は、自然が多い学校のため、秋には落ち葉がたくさんになります。11月の中旬に学年ごと落ち葉を掃いたり、拾ったりして学校をきれいにしました。きれいになった学校はとても気持ちがいいです。



(2) 福祉講話

3・4年生が、福祉講話を行いました。講師の方々が、自身の障がいについて、スライドを使ってわかりやすく説明してくださいました。今回の機会を通して、障がいに対する理解を深めることができました。また、障がいのある方に対して自分ができることを考える機会となりました。



3 一年間の評価と課題

今年度も、1年間を通して様々な形で福祉教育・福祉活動を進めることができました。子供たちが、体験的に学ぶ機会を持つことによって、より深い学びを得ることができました。今後も感染症対策をとりながら、さらに内容を精選して福祉教育を進めていきたいと思えます。

5

甲府市立国母小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 古切手・書き損じはがき収集 青少年加盟登録式 南西中による読み聞かせ	10月	地域の方とさつまいも掘り（2年）
		11月	福祉講話（3年）
		11月	全校落ち葉清掃
		12月	ユニセフ・赤い羽根共同募金
		1月	書き損じはがき、古切手

2 取り組み事例

（1）福祉講話について

11月に3年生が視覚障がいの方から、お話をうかがいました。まずは、視覚障がいの生活の様子において、触れて何時か確認できる腕時計や音声機能でメールの内容を確認していること等を教えていただきました。

つぎに、盲導犬はハーネスを付けている時は仕事に専念し、外すと仕事が終わるだというように切りかえをしていると教えていただき、子どもたちは、盲導犬に触らせていただくという貴重な経験をしました。

最後に、「視覚障がい者の方を見かけたら、声をかけてください。」と教えていただきました。子どもたちはこれから自分たちができることを考える良い機会になり、リコーダーで曲のプレゼントをしました。



●子どものふり返しカード

50点字をつかうのがむずかしいことが分かりました。スマホでも、目の見えないたいさくをされているのがすごいと思いました。もうどう犬が仕事をしているんだなと思いました。目が見えていないのに、目が見えているみたいですごいと思いました。リコーダーをよるこんでくれてよかったです。

（2）落ち葉はき

毎年、時期になると毎日順番に全校児童で落ち葉はきをしています。朝の時間や休み時間を使い、自分たちの手できれいにする福祉の心の育成に努めています。

3 一年間の評価と課題

今年度も、コロナ禍の影響で活動が短縮になったり、地域の方々との交流などが中止になってしまったりしましたが、コロナ禍でもできることに目を向け、全校一丸となって福祉教育活動に取り組むことができたと思います。今後も、福祉について学ぶ機会を持ち、思いやりの心を育てていきたいと思ひます。

6

甲府市立東小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	・給食の牛乳パック収集活動 ・家庭からの牛乳パック収集活動 ・ペットボトルキャップ収集活動 ・古切手収集活動	10月	福祉講話 4年生 赤い羽根共同募金運動
		11月	落ち葉ひろい当番 各学年 「思いやりの心」 4年生

2 取り組み事例

(1) 福祉講話

4年生が総合的な学習の時間に耳の不自由な方のお話をお聴きました。耳の不自由な方が普段どのような生活をしているのかを聞き、自分たちにできることはないかを考えることができました。



(2) 落ち葉拾い

秋になると、たくさんの落ち葉が校庭に積もります。本校では、毎年、学年ごとに落ち葉を拾っています。今年度は、購入した熊手とちりとりを使って、効果的に落ち葉を集めることができました。全校みんなで協力して楽しく活動をしました。勤労の大切さも学びました。



3 一年間の評価と課題

今年度も、4年生を中心に幅広く福祉に関わる学校行事を行うことができました。ボランティア委員会と連携した活動にも精力的に取り組み、全校で協力することができました。今後も、継続的に福祉ボランティア活動に取り組んでいきたいと思えます。

7

甲府市立相川小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ集め	10.20・21	タオル・石けん寄付活動
	花いっぱい運動	12.28～30	歳末助け合い運動（書き損じ葉書）
6.1	親子クリーンアクション	12.13	4年生福祉講話

2 取り組み事例



(1) ペットボトルキャップ集め

校内に設置された回収ボックスで集めています。ボックスがいっぱいになったら、福祉委員会の児童がまとめています。



(2) 寄付活動

タオル・石けん・書き損じ葉書を、期間を決めて集めました。タオルと石けんは近くの施設に寄付しました。

(3) 福祉講話（4年生）

総合的な学習の中で「福祉について考えよう」というテーマの元、聴覚障がいを持っている方のお話を聞きました。手話通訳を通して、質問などのやりとりをしたり、そのような人とどのように接したらよいかを学んだりしました。



3 一年間の評価と課題

本校では、福祉委員を中心に福祉活動への取り組みが定着してきています。特に年末に行っている歳末助け合い運動への取り組みは、児童一人ひとりが自分にできることは何かを考え活動に参加することができました。今後も福祉委員が中心となり、福祉の心を育む活動を継続していきたいと思います。しかし、コロナ禍のため、お年寄りとの交流や施設訪問などの活動が、ここ3年でできていません。早く以前のような活動ができたら、と思います。

8

甲府市立千塚小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップの回収	11月	高齢者体験（3年）
10月	赤い羽根共同募金	12月	愛町奉仕作業

2 取り組み事例

(1) ペットボトルキャップ回収

児童会活動の一つとして、年間を通してペットボトルキャップの回収を行いました。集まったペットボトルキャップはCOOP千塚店さんに回収していただきました。一年間で約30kgのペットボトルキャップを集めることになりました。



(2) 高齢者体験

3年生が高齢者体験を行いました。体におもりをつけたり行動を制限したり、ゴーグルをつけて視野を狭くしたりして校内を歩きました。「高齢者の気持ちが分かったので困っていたら支えていきたい。」などの感想がありました。

(3) 愛町奉仕作業

登校班の集合場所を清掃する、愛町奉仕作業を行いました。集団下校時の短い時間でしたが、班員で協力してゴミ拾いをすることができました。校外の清掃活動を通して自分たちの街をきれいにする喜びを感じることができました。



3 一年間の評価と課題

困っている人の気持ちを理解し、自分たちができる行動をしていくことの大切さを学ぶことができました。また、自分たちの街を自分たちで整備していく喜びを感じることができ、福祉の理念である「みんなの幸せ」について実践することができました。コロナが落ち着いたら、特別講師を招聘しての講話の活動やPTA奉仕作業を行っていききたいところです。

9

甲府市立東中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ収集	12.16	かえで支援学校との交流会
7月	ウクライナ義援金	12.21	かえで支援学校とのメッセージ交換
7.7	かえで支援学校との交流会	12～1月	書き損じはがき収集
10～11月	赤い羽根共同募金	2.24	福祉講話「真のバリアフリーとは」

2 取り組み事例

(1) かえで支援学校との交流

本校では、かえで支援学校との交流を継続して行っています。今年度も新型コロナウイルスの影響により対面での交流が困難でしたが、お互いの学校が近くにあることを利用し、本校の生徒は校舎、かえで支援学校の生徒は校庭にそれぞれ集まり、十分な距離をとって交流を行いました。また、お互いに映像を送り合ったり、学園祭に作品を出し合ったりなど様々な形での交流が実施できました。



(2) 福祉講話「真のバリアフリーとは」

2月24日にパラリンピックに出場した経験のある鈴木徹選手をお招きして実施しました。鈴木選手の経験談を通し、生徒たちは夢をもつことの大切さやものごとに打ち込むことの重要性を感じるとともに、パラスポーツへの興味・関心を抱いている様子でした。また、障がいをもつ方とどのように接することが真のバリアフリーにつながるのかを考える機会になりました。

3 一年間の評価と課題

かえで支援学校との交流を通し、相手の個性を認めながらどのように関わっていくのかを考えることができました。また、福祉講話を通し、パラスポーツへの関心が高まり、障がいをもつ方への理解が深まりました。

今後はこの経験を活かし、学校のなかだけではなく社会でも様々な人と協力し、助け合える力をつけさせていく必要があると感じました。

10 甲府市立南中学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あさがお運動（あいさつ運動） たてわり清掃	11月	ホンデリング
5月	ウクライナ募金活動	11月	花いっぱい運動（園芸委員会）
10月	赤い羽根共同募金活動	1月	古切手・書き損じハガキの収集活動

2 取り組み事例

（1）あいさつ運動・花いっぱい運動など

本校は、あいさつ運動や委員会主導による花の植え替えなどが定着しています。コロナ禍のため、南甲府駅などへの花の水やりはできませんでしたが、今年度も花の植え替えを行い、校内美化・整備に力を入れることができました。

（2）ホンデリング・プロジェクト

ホンデリング・プロジェクトとは、「本（ホン）で支援の輪（リング）が広がってほしい」という願いのもと、本を寄付してもらい、その本の売上金を犯罪被害に遭われた方々への支援活動に役立てるプロジェクトです。このプロジェクトに委員会が活動の一環として、全校生徒の協力を呼びかけたところ、およそ250冊の本を贈呈することができました。贈呈式の後には、被害者支援センターやまなしからお礼状が届きました。



3 一年間の評価と課題

本校は、年間を通してさまざまなボランティア活動を計画的に行っており、ボランティア活動が根付いていると思います。今年度は、コロナ禍のため、できなかった活動もありましたが、「ホンデリング」のような新たな活動を取り入れ、ボランティア活動を推進しました。今後も地域・社会に貢献できる生徒の育成に努めていけたらと思います。

11 甲府市立里垣小学校

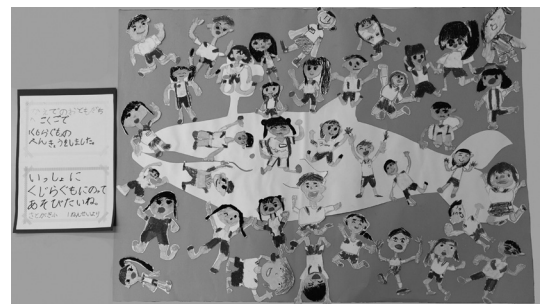
1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	・あいさつ運動 ・ペットボトルキャップ、ベルマーク等 収集 ・牛乳パックリサイクル ・古切手、書き損じはがき収集	12月 7.5 10.20 10.27 9月 2.16	・かえで支援学校との交流 1年(作品交流のみ) 2年(オンライン・紙面交流) 3年(オンライン交流) 4年(オンライン交流) 5年(オンライン交流) 6年(オンライン交流)

2 取り組み事例

(1) かえで支援学校との交流会

本校ではかえで支援学校との交流会を各学年で実施していますが、今年度は感染症対策のため、オンラインによる交流会や紙面交流が主となりました。学校での活動をまとめた映像や作品を送り合ったり、オンラインで交流会を開いたりすることで、お互いの様子を知ることができました。



(2) あいさつ運動・ペットボトルキャップ収集など

今年度も、児童会を中心にあいさつ運動やペットボトルキャップの収集などといった福祉活動に取り組みました。特に、ペットボトルキャップの収集は子ども達も力を入れており、目標数に到達させるため、ペットボトルキャップ収集強化週間を設定し、一個でも多くのペットボトルキャップを集められるよう積極的に呼びかけていました。

3 一年間の評価と課題

今年度は感染症の関係で範囲や規模が制限された活動もありましたが、年間を通して福祉教育活動を行うことができました。かえで支援学校との交流については、各学年で工夫をして交流することができましたが、対面でやりたいという声が多くあったため、今後の状況を見ながら来年度の活動内容を検討していきたいと思えます。

12 甲府市立玉諸小学校

1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
6.21	福祉講話（2組・4組）	6月	車いす・点字・白杖体験 高齢者疑似体験
6.22	福祉講話（1組・3組）		

2 取り組み事例

(1) 福祉講話

4年生の総合的な学習の授業の一環として、盲導犬ユーザーの白濱顕子さんと吉川勝彦さんを講師に迎えて、視覚障がい者の方がどんなことに困っているのか、盲導犬がどんな役割を果たしているのかについて、お話をいただきました。子ども達は、障がいがある方に出会ったときや、困っていそうな時に、自分に何ができるかについて考える機会となりました。



(2) 車いす・点字・白杖・高齢者疑似体験

体験活動をするにあたり、甲府市社会福祉協議会で車いすや高齢者疑似体験セットを借りました。おかげで、全員が当事者と介助者の両方を体験することができました。体験を通して、お互いの信頼関係がないと安心して車いすに乗っていたり、杖で歩いたりすることが難しいと感じて、相手を思いやって声をかけ合うことが大事だと、学ぶことができました。



3 一年間の評価と課題

コロナ禍の中、様々な制限がある中で、福祉講話が実施できたことは、子ども達にとって貴重な経験となりました。また充実した体験活動にするには、用具を揃えることが必須になってきます。今回実施して、学校の白杖が壊れていることが分かったので、助成金で新しい物を購入しました。体験活動で有効に使わせてもらいます。

甲府市ボランティアセンターの紹介

甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに、活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

活動の基盤づくりの援助

ボランティア活動の基盤づくりのために、次の支援を行っています。

- ・ボランティア・NPO団体への支援
- ・高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ボランティア活動機材の貸し出し
(車いす・白い杖・アイマスク・積木セットなど)
- ・小・中・高校の福祉教育学習への協力
- ・ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
- ・ボランティア活動中の万一の事故に備えて保険への加入窓口

ボランティア活動の情報収集や情報の提供

情報収集を行い、様々な媒体を活用して情報の提供を行っています。

- ・「ボランティアニュース」や「ボランティアだより」の発行
- ・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・「ホームページ」やSNS（フェイスブック）による情報発信
- ・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

甲府市社会福祉協議会のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.kofu-syakyo.or.jp/>

育成・研修ボランティア講座の開催

傾聴や手話、災害ボランティアなど各種ボランティア講座を開催しています。
(講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします。)

子育て家庭等への支援策の実施

市民等から食品や生活用品、子ども服などを寄付していただき、必要とする方達にお渡しする「フードアプリケーション プラス」や「ようふくりレー」を実施しています。

古切手・牛乳パック・不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



甲府市ボランティアセンター 実施事業の紹介

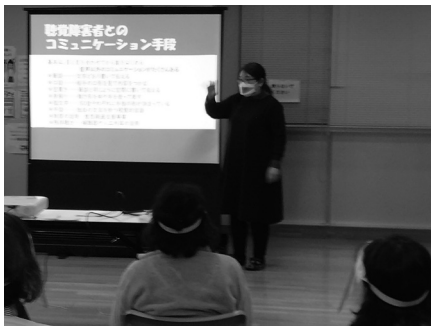
災害ボランティア学習会

災害ボランティアセンターの運営協力者を養成することを目的に、学習会を開催しています。



手話学習会

聴覚障がいや聴覚障がい者への理解を深めるとともに、手話でコミュニケーションを行うことの楽しさを学ぶことを目的に、学習会を開催しています。



ちょぼらキッズ養成講座

子ども達がボランティアについて学び、思いやりの心を育み、ボランティア活動に繋げていくことを目的に、講座を開催しています。



傾聴ボランティア養成講座

傾聴ボランティア活動を始めたい人だけではなく、様々なボランティア活動や対人関係で傾聴の技法を活かしたい人が円滑に活動を実践できるよう、傾聴の基本的知識や技術を学ぶことを目的に、講座を開催しています。



ふれあい交流フェスタ

市内の中・高・大学生や障がい児（者）、ボランティア団体などが集い、体験ブースや舞台発表などを通じて交流を図ることで、相互の理解を深め合い、障がいの有無にとらわれないユニバーサルデザインの心を養うことを目的に、交流フェスタを開催しています。



チャリティーバザー



ちよぼらキッズ養成講座



子ども食堂



パラリンピックの正式種目である
ボッチャの体験



「トゥーレモンド・エクスプレッション」
による演奏



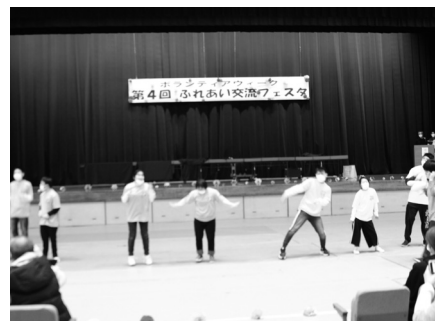
「メイプル」による演奏



「輪舞曲（ロンド）の会」による発表



「台湾原住民文化舞踏團」による踊り



「くわの家おかいこさん」によるダンス

災害ボランティアセンター運営訓練

甲府市総合防災訓練に合わせて、災害ボランティアセンター本部及びサテライトセンターの運営訓練を実施しています。



ようふくりレー

子育て家庭を支援するため、市民等からサイズが合わなくなってしまい着られなくなった子ども服などを寄付していただき、必要とする子育て家庭にリレーする事業を実施しています。



フードアプリケーション プラス

家庭や事業所等から食品等を寄付していただき、子ども支援や生活支援を行っているNPO法人などを通じて、必要とする人達にお渡しする事業を行っています。



令和4年7月の状況



令和4年12月の状況



令和5年3月の状況

※写真は、ご寄付いただいたものの一部です。

福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者（車いす使用）…歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者（盲導犬同伴）…目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者（手話）……………耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いてのコミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体……………環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体…被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の備えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者……………障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等（障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動）

ボランティア活動等器材の貸出

ボランティア活動及び福祉教育の推進を図るため、次の器材等を無料で貸し出しています。

- ◇白杖・アイマスク・点字ブロック
- ◇積木セット
- ◇放送機材（プロジェクター・スクリーン・DVD プレイヤー等）
- ◇高齢者疑似体験セット
- ◇車いす

※車いすにつきましては、車いすを必要とする方にも、無料で貸し出しています。
(対象者には一定の条件があります。貸出期間は、原則1カ月までです。)

【講師の紹介、お問合せ等】

甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL 055-223-1061
FAX 055-231-6061

高齢者疑似体験セットを使って 高齢者の体と心を体験してみよう!!

目的

1 高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

2 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

3 バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



【高齢者疑似体験セット装着】



【高齢者疑似体験セット】



令和5年6月 発行

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会 ボランティア振興課
(甲府市ボランティアセンター)

〒400-0858 山梨県甲府市相生2-17-1
TEL 055-223-1061 FAX 055-231-6061
E-mail:k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金分配金により作成しました。